

最新鋭医療装置を導入

共済連の財政支援

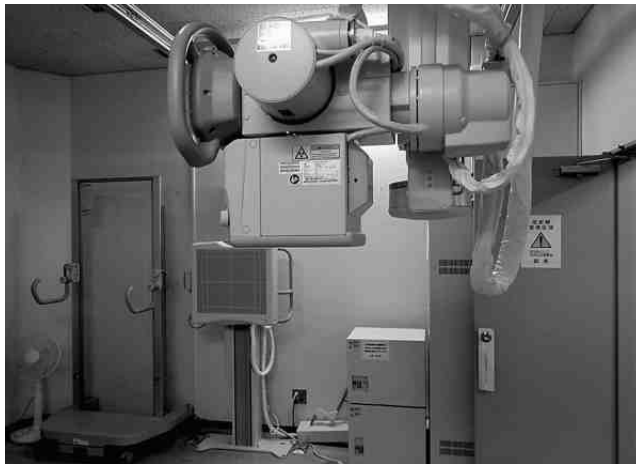
J A茨城県厚生連は全国共済農業協同組合連合会県本部（J A共済連茨城）から「救急・リハビリ医療機器」の助成を受けて、水戸協同病院にエックス線一般撮影装置（富士フィルムメディカル社製 B E N E F O R X）、茨城西南療センター病院に回診用エックス線撮影装置（同社製 C A L N E O G o P L U S）を導入しました。

これは J A 共済地域貢献活動の交通安全に関するさまざまな活動を支援する取り組みの一環で、J A 関連医療機関

J A グループ茨城 旬感ニュース

<http://www.ib-ja.or.jp>

の救急医療やリハビリ医療の充実を図ることによって交通



水戸協同病院に導入したエックス線撮影装置

事故被害者の救命や交通事故障害者の社会復帰支援を行っています。最新鋭の二つの装置は高精度で多様な画像を映し出し、診断の精度が向上する

と同時に、患者がより安心して高度な医療が受けられることにつなが

り、充実した医療の環境整備に役立つとして大いに期待されています。

J A 県厚生連は医療・保健・老人福祉事業を通じ、組合員や地域住民の暮らしと健康を守り、明るく豊かな地域づくりへ貢献するという理念の下、高度で専門

的な総合診療機能を充実させるとともに救急医療にも力を入れ、救命救急センター（第3次救急）、または緊急で重篤な患者を受け入れる（第2次救急）体制に対応しています（一部病院を除く）。

2019年度、J A 県厚生連が運営する6病院での救急患者の取扱数は9万1000人、救急車搬入件数は2万2000件を収容し、県内の救急車の出動件数のうち約6分の1を占めました。今後も J A 共済連による財政支援を生かし、引き続き J A 組合員・地域住民のために医療、救命救急に力を入れ、高度で専門的な診療がいつでも受けられる施設を目指していきます。（J A 県厚生連総務部 酒井一彦）